

奈良市民憲章

奈良は日本のふるさと、美しい自然とすぐれた文化遺産を守り、古都に住むものにふさわしい自覚と誇りに生きます。

奈良は未来をひらくまち。青少年は健康で、はつらつと、正しく強い人間になりましょう。

奈良は尊厳のまち。みんなのしあわせのために、おたがいに助けあひましょう。

奈良は清潔で平和なまち。旅行者にはあたたかく親切に接しましょう。

奈良はのびゆくまち。市民の創意で、伝統と調和のとれた新しい住みよいまちづくりをしましょう。

奈良市民だより

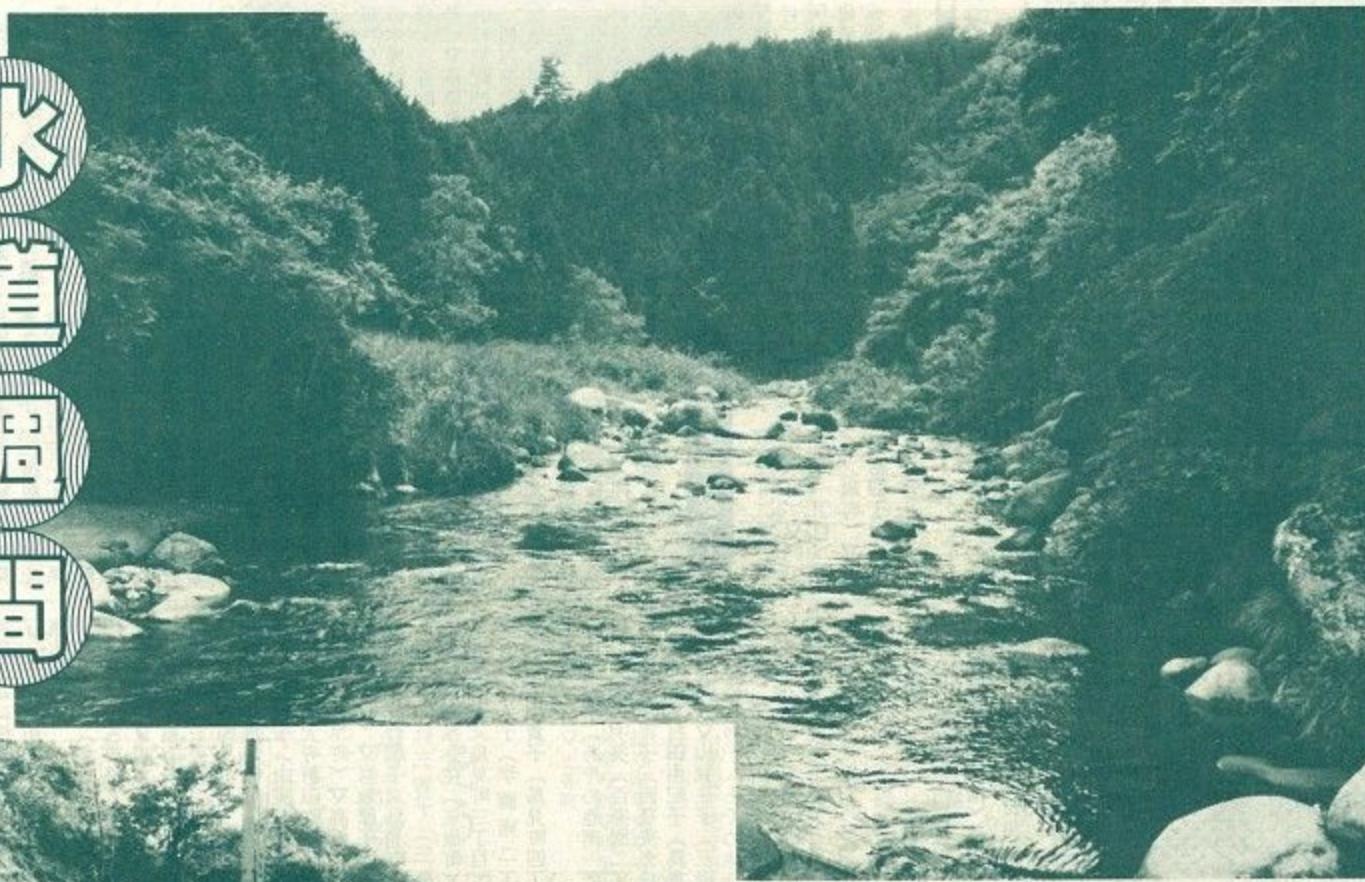
No. 489

市民のうごき

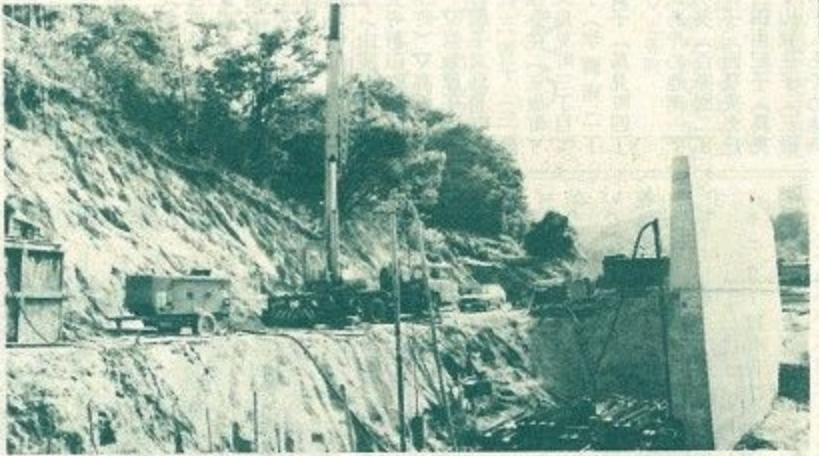
5月15日現在(前月比増)
 人口 308,836人(815)
 男 149,731(258)
 女 159,105(557)
 世帯数 99,228(597)

【上】 布目ダム貯水池となる布目川の溪流(市内北野山町)

水道週間



【下】 着工した工用進入道路(同町)



六月一日から七日までは全国的に水道週間。この週間は私たちの健康で文化的な日常生活を支える最も重要な施設の一つ「水道」について、理解と認識を深めるためのものです。

私たちが日ごろ何気なく使

待たれる布目ダム

ついでに水道の水ですが、随分と無駄使いをしているので、口をひねるといつもきれいな水が出てくるので、ついその便利さにおぼれて水資源の大切さが忘れ去られているようです。

水道の水はたくさんの人々の手により、いろいろ複雑な過程を経てつくりだされ、私たちの家庭に送られてきています。水は限りある資源で、決して無尽蔵にあるわけではありません。奈良市も例外ではなく、激増する人口を支えるための水源確保に懸命の努力を続けてきたが、今また三十五万人人口に備え、新しい水ガメとして木津川支流の布目川に総貯水量千七百三十万立方メートルの布目ダムの建設が、水源開発公団の手によって進められています。

日量七万六千トンの受水へ

奈良市上水源にこの布目ダムは重力式コンクリートダムで、完成すれば総貯水量は千七百三十万立方メートルと現在の市水道水源となっている須川ダムの約二十二倍の貯水量をもつ大きなダムとなります。布目ダムの完成とともに、市は日量七万六千立方メートルの水道用水を受けられることになります。

これに備えて市ではこの水を各家庭まで送る施設の拡張工事を進めてきました。この事業は第五期拡張事業といわれ、総事業費四十四億七千二百万円をかけて昭和五十二年度に着手、今年度末までに完了する予定となっています。

布目ダム建設事業は現在、水源開発公団が地元の人々と補償基準についての話し合いを進めている段階ですが、地元との合意を得た分ちから先行着手事業として施工することにし、すでに丹生・北野山町地内と邑地町地内の工用進入路の建設が始まっています。



このほか、水源地域整備事業として五十六年度では柳生公民館北野山分館、防火水槽二基が完成しており、引き続き関係地域に対し、整備事業などを実施していきます。ダム本体工事は地元との交渉がまとまり次第着手する態勢をまします。

水は限りある資源

平素の節水が大切です

日本は世界でも有数の多雨国で、年間平均降雨量も約千八百ミリと世界の平均(約九百七十ミリ)のはば二倍にも上っています。しかし、狭い国土に人口が多いうえ、川が短く、また降雨が梅雨とか台風などの限られた時期に片寄っているため有効な貯水ができず、一人当たり使用できる水の量は世界平均の約五分の一と貧弱です。そのうえ、わが国の水需要は年々増大しており、奈良市においても人口増に伴う水需要は激増し、昭和五十六年度で約三千九百二十五万立方メートル(日量約十立方メートル)を給水しています。

奈良市の水道は現在布目川、白砂川、木津川などから取水し、また集約水道から受水しており、日量約十五万四千立方メートルの給水能力を持っています。ところが、今後なお人口の増加やその他の水需要の増大により、年々相当の水不足が生ずるものと予想されます。そこで、この不足分については布目ダムが完成するまでの間、つなぎ水源として布目川から暫定的に増量取水できるように、国に申請しています。

こういった事情を考慮すると、水は絶対に無駄づかいしてはならない資源だということがわかります。一般家庭で使われている水をその用途別にみると、洗濯用三〇％、炊事用二三％、風呂二三％、洗

安くてうまい 水供給へ努力

水道事業も民間の企業と同じように一つの企業体であると言えます。しかし、その目的は営利にあるのではなく、すべての人が安くておいしい水を使用できるようにという公共性にあります。

水を各家庭に送るためには水源確保のための費用や貯水・浄水・配水各施設の設置、配水管の敷設などの建設費用、また薬品・材料などの維持管理の費用が必要です。法律ではこれらの費用はすべて水道料金でまかなうよう定められており、費用が多くなれば水道料金も高くなります。しかし市水道局ではこれらの費用をできる限り削減し、市民の皆さんの負担を増加することのないよう日ごろから企業努力を重ねています。



32,000人が競う 第36回 市民体育大会



六千三百人が参加して堂々の入場行進



高校・一般男子千五百人が決勝のスタート



卓球女子シングルの熱戦(中央体育館)

友情・健康・奉仕をスローガ
ンにした第三十六回市民体育大会が五月九日、五十九会場
で開かれ、二十七種目・百三
十一種別の競技に延べ三万二
千人の市民が参加、日ごろ鍛
えた技と体力を競いました。

五月晴れの絶好のスポーツ
日和に恵まれ、高畑町の教
育大グラウンドで開会式を挙
行。まず佐保小学校鼓笛クラ
ブのバレードのあと午前八時
十分、市内中・高校吹奏楽団
のファンファーレで入場行
進。一条高校舞踊部、白藤高
校ダンス部の両パトントワイ
リングチームを先頭に選手代
表六千三百人が堂々の入場行
進。

伊丹徳三郎市体育協会の開
会宣言、木山市長のあいさつ
などのあと南畑弘樹君(都南
中、相撲)が力いっぱい選
手宣誓。佐藤正夫競技委員長
の競技開始宣言で競技に移
りました。全市でこれまでの
分とあわせて三万九百三十八
戸が下水道の便益を受けるこ
ととなりました。

部落解放の仲間づくり 第16回 少年野球大会

10チーム・130選手参加



少年の健全な心身養成と部落解放への仲間づくりを

少年の健全な心身養成と部落解放への仲間づくりを
めざして「第16回少年野球
大会」が奈良市同和対策推進
協議会(荒木武男会長)の主
催で五月二十三日、改装成っ
た法連町の鴻ノ池運動公園市
営球場で行われました。

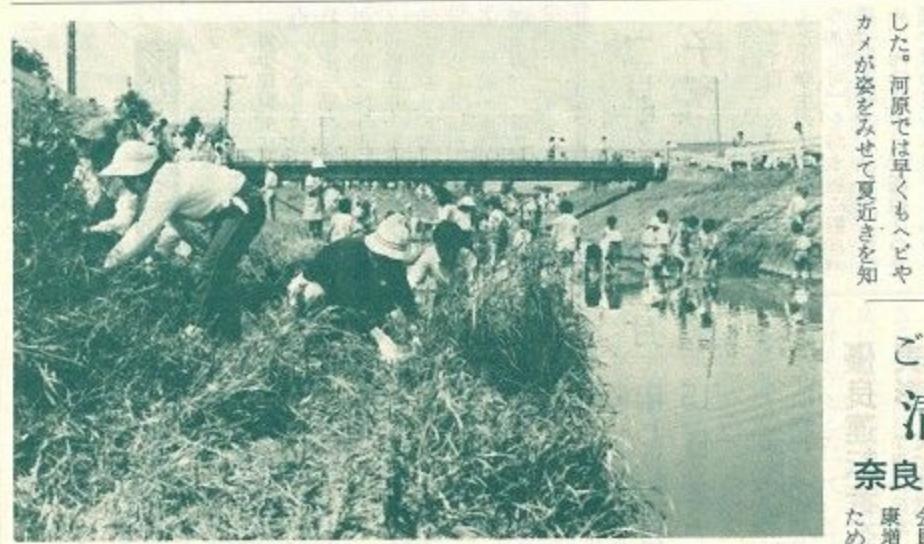
午前八時四十分、参加十チ
ームの選手百三十人が胸を張
って入場、観客席には声援の
家族らが陣取りました。
荒木大会委員長のあいさ

つ、西田市助役の祝辞のあ
と、東之阪町Bチームの松
塚一弘選手が力強く宣誓して
試合開始。
気持ちよく晴れあがった空
の下、球場を三面に分けて熱
戦が展開されました。優勝チ
ームはつぎのとおりです。
▽Aチーム(中学生) 梅園
▽Bチーム(小学生) 東之
阪町B 写真写真は新装の市

万葉の姿 取戻そう

今年も佐保川を大掃除

佐保川に万葉の清流をとり
もどそう——と佐保川清掃対
策委員会(岡嶋重治会長)の
佐保川清掃が今年も五月二十
三日午前八時半から行われま
した。この日参加したのは地
もと佐保川区の自治会の人た
ちを中心に、佐保小学校児童
も応援して約三千人。若草橋
から国鉄関西線鉄橋付近まで
の約二・三時間をかりで清
掃しました。



佐保川大掃除に子どもも大奮闘

木山市長や上田知事も「古
都奈良の中心となるこの川
を、みんなの手で美しくしよ
う」と参加者にまじって草刈

住民たちは、これも作業衣姿
の木山市長や上田知事の激励
を受けて作業開始。この清掃
も今年で二十三回目とあって
参加者も手なれたもの。茂り
かけた夏草を刈ると河原から
大小さまざまな廃棄物が現
れ、それをつ一つ拾いあげ
て、川はみるみるきれいにな
りました。

ご老人たちが 清掃奉仕

奈良公園をきれいに

市万
青年ク
ブ連合
(末廣
治郎会
長)が社
会奉仕と
会員の健
康増進の
ため五月

りや空き缶拾いに汗を流しま
した。河原では早くもヘビや
カメが姿をみせて夏近きを知
らされた。あちこちで子ども
たちが歓声をあげて集まって
いました。
この日出たゴミは四、五ト
ン二十五台分、応援にか
けつけた市や県のトラックな
どが市清掃工場へビストン輸
送して処理しました。
大掃除のあと、児童えるば
かり美しくなった佐保川へ佐
保小学校の児童の手で「佐
保川が金魚の住める川になる
ように——」との願いを込め
て数千匹の金魚を放流。奉仕
の人たちは「ああ、きれいに
なった。みんなが川にモノを
捨てないよう心がけたいもの
だね」とほっとした表情。

文化 観光講座

人気集めて開講 文化財への理解深める

奈良市文化観光
講座の開講式が五
月二十一日受講者百四十人が
参加して、市役所正庁で行わ
れ、一年間の同講座がスター
トしました。
同講座は、市民に郷土奈良
の文化財を中心として自然・
歴史などを広く学んでもら
い、国際文化観光都市奈良に
住む喜びと郷土愛を深めても
らおうと開かれるもので、来
年三月まで十回にわたって、
市内の社寺や遺跡などの現地
学習を行います。この講座は
昨年から始まり今年で二年
目。すでに市民の間に人気
が高く、百四十人の定員に対し
て二・八倍の三百九十二人の
応募がありました。
開講式で木山市長は「奈良
は文化財の宝庫ですが、その
文化財を後世に伝えるのはわ
れわれの使命です。この講座
で文化財に対する理解を深め
てください」とあいさつしま
した。

清掃工場増設 ゴミ処理に威力

人口の増
加に伴って
ふえるゴミ
の処理を十
分にすると
め、市が歌
姫町に建設
を進めてい
た新しい清
掃工場は今
年三月に完
成しましたが、その完成式が
五月十三日に同工場で開催
され、木山市長、地元関係者ら
が列席しました。
この新しい清掃工場は一日
に百二十トンの焼却能力を持
つ第一基を備え、排ガス・臭
気・汚水対策にも万全が期さ
れています。また最新技術を
力された岡田利栄さん(中山
町)に木山市長から感謝状が
贈られたあと、新会長として
堀井美智子さんを選び、今年
度の事業計画などを決定しま
した。

「手をつなぐ 親の会」総会

県精神薄弱者(児)育成会
奈良支部「手をつなぐ親の
会」(会員百六十人)の今年
度総会が五月十四日、市身体
障害者福祉センター「みどりの
家」で開かれました。
同会の会長として六年間、
精神薄弱者の福祉の向上に努

肢体不自由児 父母の会総会

市肢体不自由児(者)父母
の会(会員百三十人)の総会

鴻ノ池運動公 園に「万葉苑」

ライオネスクラブ
などが設立・寄贈
奈良ライオネスクラブ(増
尾正子会長)が発足五周年を
記念して、奈良ライオンズク
ラブ(上村次郎会長)とともに
、昭和五十九年「わかき
国体」に向けて着々と整備が
進む鴻ノ池運動公園の一角
に、万葉集にうたわれている
植物を集めた植物園「万葉
苑」を市に贈り、五月十一日
に開園式が行われました。
この万葉苑は鴻ノ池運動公
園の東北の高台に設けられ、
万葉集にうたわれている植物
のうち、あせびやあじさい、
やまぶきなど七十四種、六百
七十本が植えられ、一種ずつ
樹種とその植物が登場する万
葉集の歌が書かれた立て札が
添えられています。また万葉
苑の中央には万葉集の研究で
知られる大養老大阪大学名誉
教授の筆になる万葉歌碑が同
時に建てられました。

